

# クリティカルシンキング教育を通じた書く力の養成

久保田 祐歌

(名古屋大学高等教育研究センター)

## 1. 研究の背景と目的

大学生に必要とされる「書く力」とは、端的に言えばレポート（小論文を含む）を書く力である。初年次の学生は、自分でテーマを設定し、関連する文献を引用しながら説得的に自らの立場を提示するような形式のレポートを書いた経験がほとんどないのが一般的である。そのため、レポートの書き方を教える授業や講座によって、大学で必要とされる「書くこと」が学習されているのが現状である。その学習の中身は、論文を書く上で適切な日本語表現、論証の方法、文献の引用の仕方や註の付け方など多岐に渡っている。これらの書くスキルは専門課程での論文作成の基礎となるものでもあり、初年次だけでなく4年間のカリキュラム全体を通して涵養される必要がある。

レポートを書く際の、問いを立てたり、仮説を提示したり、その論拠や裏付けを述べるという論証過程においては、書くスキルだけでなく論理的に考えるという思考の働きがとくに要求される。そのため、学生は書く力と同時に考える力を身につける必要がある。考える力を養成する方法としては、論証の技法を直接的に教えることや、ライティング課題を通して論証を組み立てる練習をさせることが挙げられる。本発表では、論理的に考える力を涵養するための方法やライティング課題を検討するだけでなく、学生の書いたものの評価方法や評価基準についても考察する。

## 2. 論理的な思考を身につけることによって書く力を伸ばす

クリティカルシンキングの定義については諸説あるが、エニス（1986）によると、「何を信じたり、何を行ったりすべきかを決定することに焦点をあてた合理的で反省的な思考」である。レポート等における論証の際に必要なのはまさにこのような思考である。学生に対して、どのように自らの仮説や見解を説得的に論じるかを教える際、有用であるのが「トゥールミン・モデル」である。トゥールミン（1958）によると、論証は「主張」「データ」「保証」「裏付け」「反証」「限定」の6つの構成要素からなる。「主張」とは、立証しようとしている事柄であり、主張の基礎となる事実である「データ」によって支えられるものである。この「データ」がどのように主張をサポートするものであるかを説明するのが「保証」である。この「保証」が妥当なものであるかは、「裏付け」によって示す必要がある。またさらに、自らの主張と対立する言明や例外などを提示して「反証」を行わなければならない。この「反証」を踏まえて、自らの主張を限定することでより精緻な論証を展開することができる。この一連のプロセスを教えるためには、まずトゥールミン・モデルを論証の基本的なモデルとして学生に提示し、それぞれの構成要素の関係について例題を用いて理解させることが必要となる。たとえば「保証」と「裏付け」の方法や、「反証」と「限定」の関係に関する例題をとくことによって、学生は説得的な論文を書くためのスキルを学ぶことができるであろう。

### 3. 書くことによってクリティカルシンキングの力を伸ばす

トゥールミン・モデルを通して、論証の構造や展開方法を学ぶことによって書く力を向上させる方向とは逆に、書くことを通してクリティカルシンキングを促すことも可能である。学生のクリティカルシンキングのスキルを向上させるライティング課題とはどのようなものであろうか。たとえば、マイヤース（1991）によれば、分量のあるものを書かせるよりも、小さな課題を何度も与えてフィードバックを行う方が望ましいことや、身のまわりの問題や社会的な問題に焦点をあてること重要であることが指摘されている。そのための課題としては、要約や授業外プロジェクトなど多様な方法が考えられるだろう。

### 4. フィードバックによって考えて書く力を養成する

学生が提出したライティング課題の評価とは、学生がどれだけクリティカルシンキングを行うことができたかを確認するものであるし、さらに思考を深めるきっかけを与えるものでもある。学生の書いたものを評価するための方法としては、評価シートによるものと、全体的な評価の方針に基づくものがある。評価シートによるフィードバックは、個別のチェック項目に基づき判定を加えるものである。全体的な方針に基づく評価は、事前に示された評価基準によって採点するものである。これらのそれぞれを効果的に行うにはどのような方法をとったらよいのか、どちらの方法を採用することが相応しいのかについては、何に重点をおいて評価するかに関わっている。そのため、評価基準に関する考察が不可欠である。本発表ではこれらの考察に基づいた実践の報告も行う予定である。

### 参考文献

- Bean John C., 2001, *Engaging Ideas*, Jossey-Bass.
- Ennis, R., 1986, "A Taxonomy of Critical Thinking Dispositions and Abilities", in *Teaching Thinking Skills*, edited by Joan Boykoff Baron, Robert J. Sternberg, W.H. Freeman and Company.
- Toulmin, Stephen, E., 1958, *The Uses of Argument*, Cambridge University Press.
- Meyers, C., 1991, *Teaching Students to Think Critically*, Jossey-Bass Publishers.
- 大井恭子、2006、「クリティカルにエッセイを書く」、鈴木健、大井恭子、竹前文夫編『クリティカルシンキングと教育』世界思想社、pp.100-136
- 酒井浩二、2009、『論理性を鍛えるレポートの書き方』ナカニシヤ出版
- 佐渡島紗織、吉野亜矢子、2008、『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房
- 嶋崎隆、1986、「立証の構造について：「トゥールミン図式」を中心にして」『一橋論叢』第95巻、第3号、pp467-475
- 鈴木宏昭・館野泰一・杉谷祐美子・長田尚子・小田光宏、2007、「Toulmin モデルに準拠したレポートライティングのための協調学習環境」『京都大学高等教育研究』第13号、pp.13-24
- 松本茂、河野哲也、2007、『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部